

外国人の人権尊重に関する実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

鳥取県

○学校名

掲載しない(学校種：高等学校)

○教育委員会のURL

<http://www.pref.tottori.lg.jp/kyouiku/>

2. 学校紹介

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

特記事項なし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

- 主体的な学習者の育成
- 21世紀をリードする人材の育成

【人権教育に関する目標】

- さまざまな人権課題に高い志をもって主体的に取り組み、その解決に向けて社会的な行動に結びつけられる生徒の育成

○人権教育に係る取組一口メモ

部落差別を始めあらゆる差別の解決について考えることを通して、生徒自身の生き方や在り方を振り返り、人権尊重社会の担い手としての自覚を深める取組。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【人権教育推進基本姿勢】

- 教育活動の全領域において、生徒一人一人を尊重し、人権教育の実践に当たる。
- 人権教育について、全教職員が積極的に取り組み、共通理解に基づいて計画的な実践に努める。
- 部落差別の問題を中心に据え、その学習を通して差別を見抜き、差別を正し、差別を克服していく生徒を育てる教育に努める。

3. 実践事例の内容

【取組のねらい、目的】

在日コリアンに対する偏見や差別意識に由来するヘイトスピーチという差別的な言動の解決について考えることを通して、自身の生き方や在り方を振り返る。

また、違いを認め合い共に生きることができる社会の実現に向けて学習を深める。

【取組を始めたきっかけ】

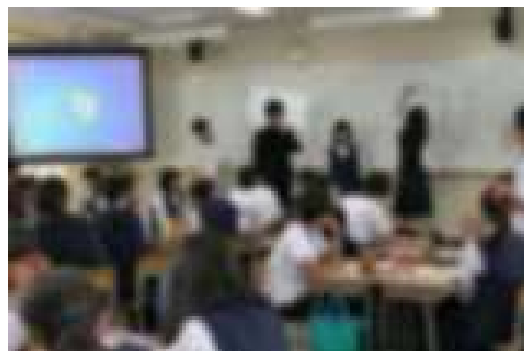
人権学習年間指導計画で、第2学年においては、すべての人の人権が大切にされる社会の在り方を考え、あらゆる差別を解決する態度を養うため、社会的マイノリティに対する差別の解決について学ぶことを位置づけている。昨今激しさを増しているヘイトスピーチの現状から、様々にある社会的マイノリティに対する差別の中でも、生徒にとって身近な問題として考えられる問題になると考え、本テーマを設定した。

【取組の内容】

[1時間目]

- (1) ヘイトスピーチに関する内容を扱った映像の視聴

ヘイトスピーチの実態、参加者の主張、参加した経緯、ヘイトスピーチの起きる背景などについて知ることができた。



- (2) 感想の共有

各班に分かれ映像を視聴した感想を述べ合い、思いを共有した。

[2・3時間目]: 1時間目の1週間後に実施

- (1) 日本と韓国・朝鮮との間の歴史を確認

人権教育LHR委員(注*)が韓国併合後に行われた政策や日本との関係について調べたことを発表し、現在多くの在日コリアンが日本に住んでいる経緯や歴史に対する理解を深め、教科書に記載してある日本と韓国・朝鮮との間の歴史を確認した。

(注*): 本校ではHR委員の一つに人権教育LHR委員を設け、各クラス立候補により決定している。任期は通年で、人数は各クラス4~6名程度。

- (2) 在日コリアンの思いを知ることができる映像の視聴

就職差別や結婚差別など、在日コリアンの置かれた状況や在日コリアンの思いを知ることができた。

- (3) (1)「歴史」、(2)「在日コリアンの思い」を踏まえた話し合い

「なぜ、社会的マイノリティである在日コリアンが差別される(ヘイトスピーチの対象とされる)か」という視点ではなく、「なぜ、社会的マジョリティの

中から、在日コリアンを差別する（ヘイトスピーチの対象とする）言動が生まれるか」という視点から話し合いを進めるよう心がけた。ヘイトスピーチという人権問題について考えることを通して、自分自身の生き方や在り方を振り返るとともに、違いを認め合い共に生きることができる社会の実現に向けて学習を深めることができた。

[4・5時間目]：2・3時間目の4か月後に実施

(1) 講演会の実施

日本と韓国・朝鮮との文化的交流や歴史問題に詳しい有識者による講演会を実施した。お互いがお互いの立場を学び、理解・尊重することや日本と韓国・朝鮮との間の近代史をそれぞれの視点で学ぶことの重要性などについて話を聞き、共に生きることができる社会の実現に向けて認識を深めた。



【取組の主体や実施体制】

人権教育LHRの1か月前には担任団で打ち合わせの後、人権教育LHR委員会を開催し、使用する資料や司会進行について事前指導を行った。当日は、人権教育LHR委員と担任を中心に進行した。話し合いは、5～6名で編成された班で行い、その後、クラス全体に発表することで、意見や思いを共有するように心掛けた。

【取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫】

書籍で調べる際には情報の根拠や出典を明らかにすることができるが、インターネットで調べる際にはその根拠を明らかにすることが困難な場合が多い傾向にある。引用の際には十分に確認するように指導を行った。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

【取組を実施する際に生じた課題】

掲示板など根拠が明らかでないインターネット上に書かれていることを信じている生徒もいて、差別意識や偏見を植え付けられてしまう可能性も否定できない。インターネット上の情報を主体的・批判的に読み取る能力という点で課題を感じた。

【課題に対する解決方法】

ヘイトスピーチに関して、肯定する意見と否定する意見との両方の意見について、それぞれどのような論理構成になっているか冷静に分析した上で、自らがどのように判断し態度決定するか、じっくり考えられるように展開した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

【取組の実績】

当該LHR後家庭に帰り、学んだことについて保護者と話し合い、不当性や怒りを共有した。

4か月後に実施した有識者による講演会後の座談会に、多くの生徒が参加し、活発に質問を行うなど、関心の高さが窺われた。

【取組が効果を上げた実際の事例】

鳥取県と友好提携に関する協定を結んでいる韓国・江原道の高校生が近畿高等学校総合文化祭に参加するために来鳥した際、ホームステイ受入れの希望を募ったところ、多くの家庭が希望した。

【取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項】

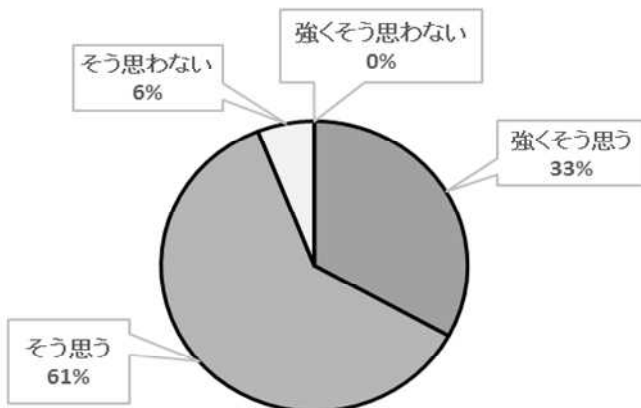
現代を生きる高校生に過去の歴史に対する責任はないが、当時の時代的な背景も含めて歴史をきちんと知った上で現代社会の課題解決について考える必要があるとの視点から、人権教育LHR委員が歴史について調べ発表する活動（[2・3時間目]（2））を取り入れた。生徒の学習への参加意識を高める上で有効だった。

6. 実践事例についての評価

【取組についての評価、及びそう評価する理由】

ヘイトスピーチを人権問題として捉え、その問題点について理解を深めることができた。

人権問題について考えを深めることができるLHRだったか？



振り返りシートによるアンケート項目の結果に対して、強くそう思う（33%）、そう思う（61%）、そう思わない（6%）、強くそう思わない（0%）との回答があったことによる。

【保護者や地域住民からの反応】

4か月後に実施した有識者の講演会に、保護者等の参加があった。

【現在、実施に当たって課題と感じていること】

手段と目的を明確にして授業を展開することが重要である。ヘイトスピーチの実態や日本と韓国・朝鮮との間の歴史について学ぶことは大切であるが、それは飽くまでも手段であり、目的はこれらの学びを通して自身の生き方や在り方を振り返り、人権尊重の社会づくりの担い手としての自覚を深めるとともに、違いを認め合い共に生きる社会の実現に向けて、更に学習を深めることだと生徒と教職員とが、共に常に認識しておく必要がある。